

## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】紺野 響平

授業者氏名	紺野 響平	学校名	札幌市立 栄南小学校
教科（科目）・領域	道徳	対象学年（人数）	5年 1組（32名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年 3月 ～ 3月（2時間）		

### 【実施概要】

1. 単元名（活動名）：外国とのつながり						
2. 実施する教科・領域：		3. 学習領域				
道徳 「国際理解、国際親善」			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：						
スリランカと日本の生活を比較したり、スリランカで出会った人の活動を知ったりすることを通じて、他国の文化を理解するとともに、そこで活動する日本人の意識を考えることができる。						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	スリランカの生活の様子を知り、日本と比較することができる。				
	②思考力、判断力、表現力等	支援について考える活動を通して、その支援が必要・不必要である理由を考えることができる。				
	③学びに向かう力、人間性等	スリランカと日本の文化を比べたり、支援を考えたりする活動を通じて、大切なことは何かを考えようとしている。				
6. 単元設定 の理由・単元 の意義  (児童/生徒観、 教材観、指導観)	【単元設定の理由】					
	スリランカと日本は数多くの関わり合いがある。同じ世界に生き、互いに支え合いながらも生きている。今後グローバル化が進展し、ますます世界とのつながりが深化するといわれている時代に向け、児童には世界との関わり合いは切っても切り離すことができないことを伝えたい。					
	【単元の意義】					
	上記のことを踏まえ、この学習を通じて、国際的な関わりとはどんなものかを考え、知るきっかけとなり、関わり合うためにはどんな気持ちが必要なのかを考える第一歩としたい。					
【児童/生徒観】						
外国語の授業をしていて「英語は必要ない。」と答えることや、実際に身近な生活の中で、外国の人と関わるのがほとんどない。まして世界の国々との関わりを意識する経験も少ない実態がある。						
【指導観】						
そんな児童の実態を踏まえ、本単元では共感的理解を伴う学習活動とすることを意識した。実際のインタビュー動画やゲームを通じて、スリランカ日本のつながり関わり合いや、今後の協力の仕方を考えさせていきたい。						

7. 単元計画 (全 2時間)			
※全体の総時間数は適宜変更してください。			
時	ねらい	学習活動	資料など ※:JICA リソース活用はここに記載
1	スリランカと日本の生活の様子について比較することを通じて、共通点や相違点を理解することができる。	<p>○スリランカに関するクイズを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所や環境などを確認する。</li> </ul> <p>「日本かな？スリランカかな？」</p> <p>○スリランカの様子と日本の様子が映った写真をどちらが日本・スリランカか分類する。</p> <p>「日本とスリランカの生活を比べてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分類した日本とスリランカの街並みや生活に関する写真を比較することで、共通点や相違点を探していく。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スリランカと違うところもたくさんあったけど、同じところもたくさん見つけることができたよ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリランカで撮影した写真</li> <li>・スリランカと日本の写真</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
2	スリランカで活動している人が活動している内容を知ることを通して、他国の人と関わる時に大切なことは何かを考えることができる。	<p>○津波の写真を見て、APCAS の石川さんについて知る。</p> <p>「みんなが石川さんと協力して、津波に対する活動をするならどんなことをする？」</p> <p>○活動を分類する活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動・支援を記したカードに優先順位を付けていく。</li> <li>・その理由を考える。</li> </ul> <p>○現地調査タイム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地の様子を記した情報を獲得し、再度、活動カードに優先順位を付け直す。</li> </ul> <p>○ランキングを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような意図でランキングをつけたか、現地調査を経て、どのように付け直したかを交流する。</li> </ul> <p>○支援をするときにどんなことを意識して行うのだろう？</p> <p>○石川さんの動画を見る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手のことを理解し、本当に必要なことは何かを考えることが大切なんだね。</p> <p>○振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の写真</li> <li>・状況カード</li> <li>・支援カード</li> <li>・情報カード</li> <li>・活動計画</li> <li>・ワークシート</li> <li>・APCAS でのインタビュー動画</li> </ul>

8. 本時の展開（2時間目）									
<p>本時のねらい：津波による被災者に対して、どんな支援が良いかを考える活動を通して、現地の人と関わる時、どんなことを意識することが大切かを考えることができる。</p>									
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）						
<p>導入 (5分)</p> <p>展開</p>	<p>「この写真は何の写真だろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災の津波とスリランカの津波の写真を見る。</li> <li>スリランカで出会った石川さんの存在を知る。</li> </ul> <p>「石川さんは、東日本大震災でも、スリランカを襲ったスマトラ島沖の津波でも被災した人たちを支援したそうです。もし、みんなが石川さんと協力して支援するならどんなことをするだろう？」</p> <p>○活動カードをもとにランキングをつける。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">必要な支援 食料を配る</td> <td style="width: 33%;">余裕があればする支援 ハンドクリームを送る</td> <td style="width: 33%;">必要ない支援 働く場所を作る</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; background-color: #cccccc; padding: 5px;">現地調査タイム</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">必要な支援 働く場所を作る</td> <td style="width: 33%;">余裕があればする支援 食料を配る</td> <td style="width: 33%;">必要ない支援 ハンドクリームを送る</td> </tr> </table>	必要な支援 食料を配る	余裕があればする支援 ハンドクリームを送る	必要ない支援 働く場所を作る	必要な支援 働く場所を作る	余裕があればする支援 食料を配る	必要ない支援 ハンドクリームを送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が出会った一部の人の意見であることを十分に押さえさせる。</li> <li>津波の被災状況を明確に指定する。</li> <li>追加の現地の情報を与えることで、支援を選ぶ際に現地のニーズを得ることの大切さを考えるきっかけにする。</li> <li>選ぶ理由を考えさせるように指導する。</li> <li>交流するときには各グループの理由に焦点化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>津波の写真</li> <li>石川さんの写真</li> <li>状況カード</li> <li>活動カード</li> <li>活動計画</li> <li>現地調査情報</li> <li>ワークシート</li> <li>APCASでの動画</li> </ul>
必要な支援 食料を配る	余裕があればする支援 ハンドクリームを送る	必要ない支援 働く場所を作る							
必要な支援 働く場所を作る	余裕があればする支援 食料を配る	必要ない支援 ハンドクリームを送る							
<p>まとめ</p>	<p>分類した理由を交流する。</p> <p style="text-align: center; background-color: #cccccc; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;">何をもとに選んだのかな？</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">相手が必要だと思うもの</td> <td style="width: 50%;">本当に必要だと思うこと</td> </tr> </table> <p>「実際に活動していた石川さんのインタビュー動画があります。どんなことを意識していたのか聞きとってみましょう」</p> <p>○石川さんの動画を見る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">相手のことを理解し、本当に必要なことは何かを考えることが大切なんだね。</p> <p>○振り返りを行う。</p>	相手が必要だと思うもの	本当に必要だと思うこと						
相手が必要だと思うもの	本当に必要だと思うこと								
<p>9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>津波による被災者に対して、どんな支援が良いかを選ぶ活動を通して、どんなことを意識して活動することが大切かを考えることができたか。（ワークシート・発言）</p>									

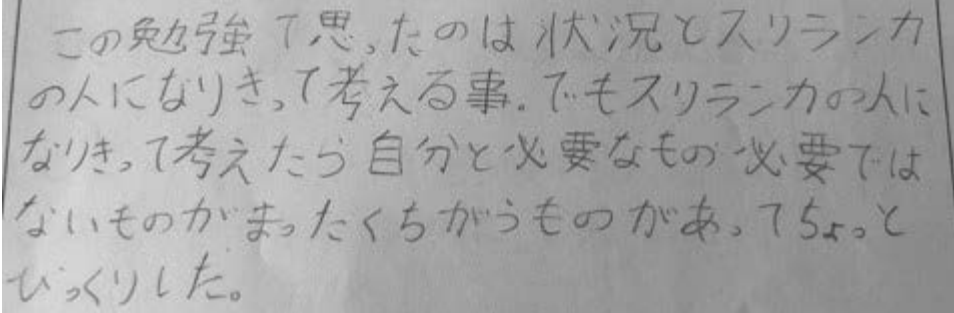
## 10. 学習方法および外部との連携

本単元では、スリランカで出会った日本人・スリランカ人の人と話したことや、自分自身体験したことを教材にした。本時では、APCASの石川さんをもとに授業を構築した。石川さんがスリランカの津波被害や、東日本大震災で行った支援の実話を支援カードにした。そして、「どのような支援をするのがよいか」を分類する活動を通して、現地の人と関わるときにどんなことを意識するのが良いかを考えることをねらいとした。

## 11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

本単元を校内で公開授業とし、指導案や授業を通じて校内の先生たちに見てもらうことで、自分が行ってきた実践を広めることとした。

### 【自己評価】

12. 苦勞した点	「支援の在り方」を考えることが、小学校5年生という発達段階を考えたときに難しいのではないかと、ということが一番頭を悩ませた点である。授業づくりを通して、支援のカードには物資のみを抽出した。そうすることで、難易度を下げることが狙った。
13. 改善点	物資を考えることは5年生でも十分にできることが分かった。しかし、カードの分量が多かったこと、全体交流がただの発表になってしまったことが問題点だった。カードは18枚用意したが、10枚程度でよかったと思う。また、全体交流では特に毛布やハンドクリームなど、文化や気候に着目したカードに絞って交流を行うことで、話し合いが活性化するのではないかと考える。
14. 成果が出た点	なにより子どもたちが楽しそうであった。1時間目のスリランカの文化紹介やカードを分類する活動には意欲的に取り組み、話し合う様子が見られた。このような授業を行うことで、子どもたちが外国に興味をもってくれることが1番の成果だと感じる。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	

・他の人を見ても、食べ物や飲み物は必要だと言っていた。  
 ・他の人では、食べ物でも、スリランカの人にはなじみのない食べ物は、いらな<sup>い</sup>こと  
 (おも<sup>ち</sup>など)  
 意見が出たけれど、自分は、食べ方が分からなかったら教えてあげたら、<sup>い</sup>と思った。

今日学習して、学んだことや感じたことを自由に書きましょう。  
 津波がおきた場所は、食べ物なくて、それなのに、津波がおきかない場所は、ふつうに食べ物がある。だから、少しでも、食べ物があれば、ほいのに、こっちは、食べ物があまるくらいあるから、残し<sup>て</sup>食べ物があって、それを~~残す~~津波がおきたところにいる人が見たら「残すくらいなら、くれよ！」<sup>と</sup>思<sup>う</sup>と思<sup>う</sup>。だから、残し物は、よくないと思<sup>う</sup>。これから、気を付ける。今、色々な物がある事に、感謝しようと思<sup>う</sup>。

今日学習して、学んだことや感じたことを自由に書きましょう。  
 日本とスリランカの文化はちがうから、スリランカの人<sup>の</sup>事を考<sup>え</sup>て、必要<sup>な</sup>もの<sup>を</sup>とどけた<sup>ら</sup>ほ<sup>う</sup>が<sup>い</sup>いと思<sup>っ</sup>た。

16. 授業者による自由記述

研修に参加する前から「日本とのつながり」を自分のテーマとして設定し、現地での教材収集を行ってきた。「日本もスリランカも、ひいてはいろんな国や色んな人が互いに関わり合っ<sup>て</sup>世の中が成り立<sup>っ</sup>てきている」ということを、自分の学級の子に伝えたかった。そんな想いから作ったこの授業は、うまくいかなかった点が多くあったが、子どもたちはそれぞれが色んなことを感じ、考えていたことが振り返りや授業の様子から見て取れた。初めて国際理解の授業を受けた子どもたちにとって「相手の文化を理解することが大事」ということをなんとなくでも思<sup>っ</sup>てくれれば、それが第一歩とな<sup>っ</sup>てくれれば実践した意味があ<sup>っ</sup>たと思<sup>う</sup>。

参考資料：

## 石川さんと協力！指令書！

あなたは、困っている人たちを助ける団体に働いているメンバーの一員です。

石川さんに協力してほしいと言われ、班の友達とともに、スリランカで津波に被災した人たちにどんな物資を渡すかを話し合い、石川さんに提案することになりました。

あなたならどんなものを渡しますか？



### <状況>

- ① 津波が起こってから2か月が経ちました。
- ② よその国の助けもあり、食べ物や飲み物は徐々に一人一人に当たるようになってきました。
- ③ しかし、津波が来る前のように、お店や学校、病院などの建物はありません。
- ④ 住民たちは仮設住宅に住んでいます。
- ⑤ これから元の生活を取り戻し、みんなが幸せになれるような場所を作っていこうとしている段階です。
- ⑥ 今、みなさんはスリランカにいて、石川さんに頼まれ、日本から送られてきたモノをどうするか  
の会議をしています。

### <作戦会議>これからやること！

班ごとに送るものや活動を考えます。

- ① みんなで相談しながら、活動予定計画に物資カードをそれぞれを  
「○」…「必要なモノ！」  
「△」…「あまり必要ではないモノ」  
「×」…「必要ないモノ。」                      の3つに分けてみましょう。

- ② どうして「必要」か「必要ない」か、その理由を書きましょう。
- ③ 班で一名、現地調査員を決めてください。時間がある程度経過したら、現地の追加情報を集めることができます。
- ④ 班で、石川さんに提案する人を1・2名決めましょう。

<物資カード>

<b>ハンド</b>	<b>トイレット</b>
<b>クリーム</b>	<b>ペーパー</b>
<b>ペットボトル</b>	<b>ガスコンロ</b>
<b>入の水</b>	
<b>米</b>	<b>カップ麺</b>
<b>みそ汁の</b>	
<b>もと</b>	<b>おもち</b>

あたたかい  
毛布

ホツカイロ

しっぷ  
湿布

ブーツ

衣服

しき布団

胃腸薬

スプーン



# はし

# サンダル

## 活動計画

○必要なモノ	×必要ないモノ
どんなことを考えて仕分けたのかな？	

## 現地調査レポート



現地の人に聞き込みを行うことで、以下の情報がわかりました。  
この情報も使ってもう一度物資の仕分けを見直してみよう！



### 現地の主婦の人による話

スリランカではアーユルヴェーダという医学が行われています。体の調子が悪くなった時には、食事を見直すちりょうをします。病状によっては運動や睡眠など生活スタイルの改善、薬という順でちりょうが行われます。



### 現地のお姉さんの話

カレーなどのスパイスを使って味付けをしてるのよ。主食はお米がおおいわね。

スリランカでは食事の時には手で食べることが多いわ。だから、よく食事の前や後には水で手を洗うわよ。



### 現地の男性の話

スリランカの気温は一年を通じて約30℃になるんだ。だからぼくらは薄かったり、すずしかったりする衣服をよく身に付けるよ。

## まとめると・・・

---

- 「支援してあげている」という上から視線ではなく、「ともに」
- 現地の人「本当に必要なものは？」





---

石川さんは  
どんなことを考えて  
いるんだろう？

みんなは  
どんなことを考えて  
仕分けしたのだろう？



そこまで！  
石川さんに提案だ！

- 
- 制限時間は15分。

テキパキしないと石川さんと話し合う時間に遅刻してしまう！

# 石川さんと協力して 津波の支援をしよう！

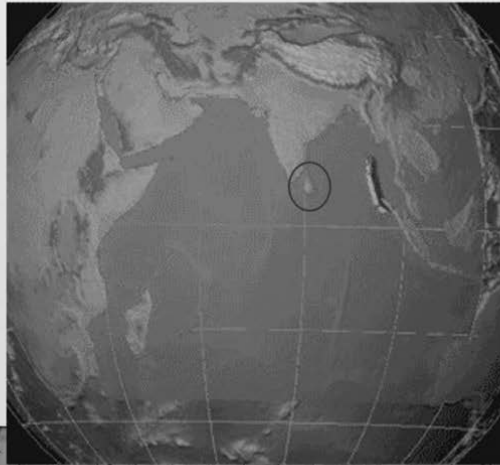




# スマトラ島沖地震

- 死者 約22万人  
(東日本大震災：15000人)
- マグニチュード9.0  
(東日本大震災と同じ！)

警察庁HP・ (<http://www.bosai.co.jp/sumatrathunami.htm>)



# 外国とのつながり

---

今日の活動を振り返って  
学んだこと・感じたこと

---